

## 2018年度 第1回 CPC研究会

日時：5月18日(金) 13:30～16:30

会場：化学会館 501 会議室 <http://www.chemistry.or.jp/access/index.html>  
(〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 TEL: 03-3292-6161)

参加費：維持会員・大学官公庁関係 = 無料 / 非会員 = 20,000 円  
<http://cpc-society.org/>

13:30～14:55

「私のなかでの炭素史」

北海道大学名誉教授 稲垣 道夫 氏

- 1) はじめに
- 2) 私のなかでの炭素材料
- 3) X線回折法の標準化と国際会議の3大陸輪番制
- 4) ナノチューブ、グラフェンブームと論文審査の問題点
- 5) 「グラフェン」という名称の起こりとそれが教えてくれたこと

私の炭素研究は1958年に始まりました。今年で丁度60年目になります。この間に、ガラス状炭素、熱分解炭素、炭素繊維、カーボンナノチューブ、フラーレンそしてグラフェンと、新しい炭素材料が次々と出てきました。そんな激動の中で研究生活を送ることができたことは、大変幸せな事でした。この60年間の私の実績は微々たるものですが、そのいくつかをお話しようと思っています。特に、グラフェンについての知見が、従来の炭素材料研究にも新しい視点を与えているのではないかと思いますので、それらの点について、問題点と合わせて、お話しできればと思います。

15:05～16:30

「日清紡グループにおけるカーボン材料とのかかわり」

日清紡ホールディングス株式会社 今城 靖雄 氏

- 1) はじめに
- 2) 日清紡グループの紹介
- 3) 日清紡グループのカーボン事業
- 4) 燃料電池とカーボン
- 5) おわりに

日清紡におけるカーボンとのかかわりについて、今回ご紹介をさせていただきます。弊社のカーボンへの取り組みは、約30年前新規な熱硬化性樹脂を焼成するところから始まっております。その経緯をご説明し、現在取り扱っているカーボン製品ならびに燃料電池部材(バイポーラープレート)、さらには今、研究開発を進めている燃料電池用白金代替触媒などの開発についてもご紹介をさせていただきます。

---

CPC研究会 講演会事務局 行 e-mail: [sec@cpc-society.org](mailto:sec@cpc-society.org) または FAX: 029-861-8712

5月18日の第1回研究会に出席します (化学会館 501 会議室)

お名前: 維持会員 非会員 大学関係

ご所属:

Tel:

Fax:

E-mail: